



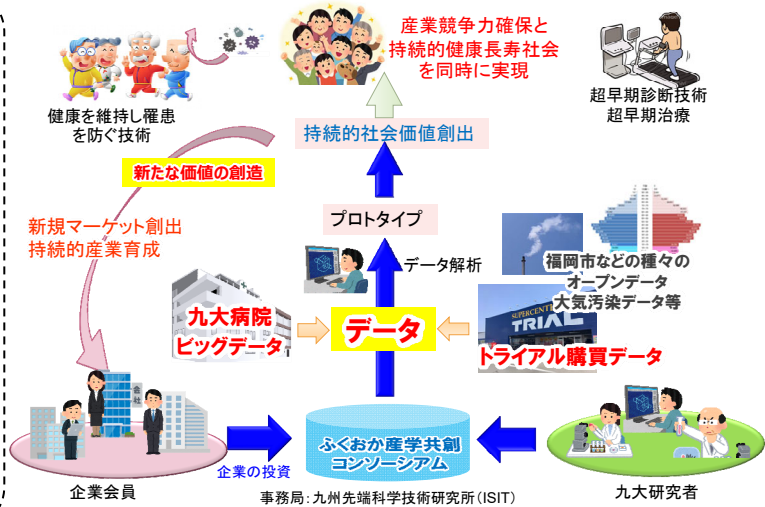
DX を研究に活用した新たな産学連携プラットフォームが本格スタート

日本の国際競争力を支えてきたモノづくりは、後発国の企業の台頭により競争力を失っているのが現状です。日本は依然として高い技術力を維持しているものの、その技術を新しい価値（イノベーション）の創造につなげられていないのが後退の原因の一つです。

昨年、工学研究院応用化学部門を中心とするグループは、公益財団法人九州先端科学技術研究所（ISIT）と協力し、真のイノベーションを創出するための基盤を提供する取組み（オープンサイエンスプラットフォーム：OSP）を開始しました。本取組みでは、イノベーションにつながるアイデアを発想するために、多様な知の集約により既成概念を超えるデザイン思考とデータを活用する新しいデジタルトランスフォーメーション（DX）手法を実践しています。通常の研究では、データはアイデアを検証するために用いられていますが、ここでは、データからアイデアを発想するというこれまでに例のない研究手法でイノベーション創出に挑んでいます。特に今後の成長が最も期待される分野である医療・ヘルステクノロジー分野でのアイデア創出を目指し、これまで九州大学病院の持つ医療データや様々なオープンデータを用いて試行をしてまいりましたが、今年度から新たに株式会社トライアルホールディングスの持つ購買データも活用できることとなり、本格始動となりました。現在 OSP には9社の企業と福岡市などが会員となっています。今後、さらに会員を拡大しイノベーションの輪を広げていきます。

参画企業の声：

- ◆企業単体では実施しにくいテーマを、大きな投資なしに大学で実施できる
- ◆成果が見えた時点で共同研究に移行して獲得が可能。低リスクで様々なトライアルを実施できる
- ◆企業ではアクセスしにくいメディカルデータで興味のある課題を解析でき、実証実験も可能
- ◆新しい能力を身につけた学生の獲得や社内人材教育もできる
- ◆九州大学内の様々な有形無形のリソースを利用可能



（上：参考図）

本 OSP はふくおか産学共創コンソーシアム下に9社の企業と自治体などの会員と本学の研究者が参画し、オープンな場において九大病院のビックデータやトライアル社の購買ビックデータを共有し、データに基づいたアイデアからイノベーションを創出する。

（左の写真）OSP ワークショップの様子



【お問い合わせ】 工学研究院応用化学部門 教授 片山佳樹

電話：092-802-2850 FAX:092-802-2850

Mail: ykatatcm@mail.cstm.kyushu-u.ac.jp